

29-8 教育研究評議会議事概要

日時 平成29年10月18日(水) 13:30~15:25
場所 事務局棟2階会議室
出席者 駒田学長
山本, 鶴岡, 尾西, 加納, 尾藤, 富樫, 野崎, 橋本, 西村, 堀, 新保, 伊藤(正),
安食, 樹神, 鶴原, 山口, 片山, 緒方, 清水, 伊藤(智), 梅川, 三宅, 井口
欠席者 松田, 吉本, 清水, 神原
陪席者 服部監事, 山中監事

◎ 議事に先立ち, 大学祭実行委員会委員の学生から, 第69回三重大学全学大学祭「千祭一遇」の開催についての紹介があった。

◎ 前回議事概要の確認

学長から事前に照会した29-6教育研究評議会議事概要(案), 29-7教育研究評議会(臨時)議事概要(案)について, 資料のとおり記録に留めたい旨の報告があり, 了承された。

I 審議事項

1. 三重大学地域拠点サテライト伊賀サテライト規程等の改正について

学術情報部長から, 「資料: 審-1」に基づき, 各サテライト規程で定める運営委員会について, サテライト構想で描いた運営委員会のあり方と, 現在の運営委員会に期待するあり方が乖離しているため, 各自治体関係者との実質的な意見交換を通じて, サテライト構想が目指す効果を高めることを目的とした「三重大学地域拠点サテライト伊賀サテライト規程」, 「三重大学地域拠点サテライト東紀州サテライト規程」「三重大学地域拠点サテライト伊勢志摩サテライト規程」の改正及び三重大学地域サテライト運営委員会要項の制定についての説明があり, 審議の結果, 原案どおり承認された。

◇主な意見

- 期待と現実が食い違っているということであるが具体的に中身はどういうことなのか
→当初の予定では各サテライト規程で定める運営委員会において, 各サテライトの運営を審議し方向等を決めていくことを想定し, 各サテライトの規程に運営委員会を盛り込んでいたが, 運営検討部会, アドバイザー等から意見をいただいた結果, そういったことではできないという意見があり, まずは話し合いから始めなければいけないということで, 三重大学地域サテライト運営委員会要項(案)を作成し, 各サテライト規程で定める運営委員会の規程から審議することについて削除したものである。
- 各サテライトの運営については市町と協議し, サテライト自体の運営については大学の中で閉じるということなのか
→今まで各サテライト規程で定める運営委員会でサテライトそのものを運営するというような形を想定していたが, そういったことがなかなか整えることができなかつたため, まずは意見交換をするという場に切り替える必要があるということとなり, 三重大学地域サテライト運営委員会をその位置付け(意見交換の場)とし, そもそものサテライト自身は大学で運営するということになるため, そういった意見調整も踏まえながら部会で検討して三重大学地域拠点サテライト運営会議で諮り, サテライトの運営自身の決定は三重大学地域拠点サテライト運営会議で審議し, 最終, 場合によっては役員会等へも諮るものである。
- サテライト自体の三重大学地域サテライト運営委員会とはどういう性格なのか, 意見交換ということは, 審議機関は大学の中に置くこととなるのであれば地域との関係はどうか
運営委員会で話し合うことは, 審議へは関係しないことであり, そこで話し合ったことが事実上反映されるということなのか

→三重大学地域サテライト運営委員会要項（案）の第1にあるとおり、三重大学地域拠点サテライトの成果の向上に向けて、関連する自治体から本学の活動方針等に対する理解を深めていただく又は、関連する自治体との円滑な連携を図るために地域サテライト運営委員会を設けるということに切り換えさせていただくということであり、その意見についてはそれぞれのサテライトの運営検討部会において市町の要望、本学の理解等を話し合いながら、それぞれのサテライトにその意見を取り込んでいくものである。

- 運営会議と運営委員会の違いが名前ではよくわからないところであるが、運営会議の下にある運営ワーキングのようなもので、具体的なことはそこで行うが、最終決定はその場ではしないというイメージかなと思っており、会議と委員会はどちらが上か下かということを示してもいいのかもしれないが、感覚としては分かりにくいと感じるが、運営ができていけばそれでいいのではないかと思う。

→以前の各サテライト規程で定める運営委員会の役割についてであるが、設置当初はサテライトの運営に大きな責任を持つという位置付けで考えていたが、責任を持つとなると市町の方と交渉するとかかなり責任ある人の出席が必要となることとなり、その方達の日程調整をするとか開催が困難となることより、会議等の見直しを行い大学の構成員と市町の実際の担当している者との意見交換の場とすることでサテライトが上手く動くのではないかと意見が多数あったことより、この改正のように委員会に市町の事業担当者が出席できるような会議体としたいということが改正の趣旨であり、それを基に大学でどのように動くかは運営検討部会があり、部会でたたき台を作成し、学長・理事・部局長等で構成される三重大学地域拠点サテライト運営会議で決めるということとしたものである。

- それであればなくすことはなく、ワーキングを設置すればいいことであり、制度設計は色々あると思うので、最終的にサテライトとして大学内部で決めるのか、年1回か2年に1回とするのかは分からないが、形としては責任ある人が出席するような会議をサテライトの審議機関として設置するのか等、考え方や制度設計は色々あり得ると思うところである。

→話題により重みが違うので重い話題の時には市町の責任ある人が出席し、具体的な意見交換の場合には市町の事業担当者が出席してもらうものと考えている。

- 責任ある人に出席を依頼するとなると、きちっとこういう事を決めます、こういう会議になっているから出席してくださいと決めておかないと「必要だから出席してください。」では出席してもらえないので「出席しないと決められない。」ということ年1回か2年に1回でも開催するということを決めておかないといけないと思う。

- 伊勢志摩サテライトの運営会議に傍聴者としての参加ということで出席をしたところ、結局は意見を求められたりしたと思えば、その後、今月末には意見交換として部局長が呼ばれているといったような、会議のシステムというか構成がよく分からない。

部局が責任をもってやるのか、各サテライト長が責任を持ってやるのか、このままであれば学舎主体の部局中心でやっていてサテライトというのがいつまでたっても形になっていかないのではないかという気がする。

やはり各サテライト長が統括してサテライトを運営していかないと、サテライト運営委員会に我々が出て、我々が意見だけ言ってくるというのも変な気がする。

→中央のサテライトを運営する事務体制等が非常に軟弱（1人～2人である）であることより難しい面もあるので、これからそこを充実させていけば、少しずつ改善していくものであると考えている。また、重要な市町の長に参加いただく会議は極めて大切であると考えられるので、今後の検討課題として頻回の開催は難しいと思うが、年1回でも集まっていたく体制が重要であるので検討することとする。

2. 三重大学医学部医学科収容定員の変更について

企画総務部長から、「資料：審一2」に基づき、三重県下において、地域における医師不足が深刻な状況であり、地域医療体制の整備が緊急の課題となっていることより、「地域の医師確保等の観点からの平成30年度医学部入学定員の増加について」に基づく国立大学医学部にお

ける定員増に係る手続き等について（平成29年9月22日付事務連絡）」に基づき、平成29年度を期限とする臨時の定員15名について、再度の定員増の申請を行う旨の説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

3. 三重大学学業成績等優秀学生の授業料免除制度による平成29年度学業成績等優秀学生の選考について

学業成績等優秀学生の選考について野崎副学長から、各学部・研究科から、学業成績等優秀学生候補者22名の推薦があった旨の発言に次いで、「資料：審一3、席上配付資料」に基づき、説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

なお、席上配付資料については、本会議終了後、個人情報保護の関係から回収した。

4. その他

なし

II 役員会報告

1. 第14～19回役員会について

企画総務部総務課長から、平成29年度第14～19回役員会について「資料：役一1、参考資料1～6」に基づき、報告があったほか、新保副学長から、安否確認システムへの登録状況及び登録についての依頼があった。

III その他報告事項

1. 平成29年度業務執行状況（第2四半期）について

各理事・副学長から、「資料：報一1」により、担当毎の平成29年度業務執行状況（第2四半期）についての報告があった。

2. 「PBLセミナー」の定義の見直しについて

山本理事から「資料：報一2」に基づき、「PBLセミナー」の定義の見直しについて、PBLセミナーの現状と問題点及び見直しの必要性についての説明があった。

◇主な意見

- 教育会議で決定しているということなのか、また、教養教育のセミナーだけを指しているものではなく全学的ということで各部局において開かれるものも含めてこのように扱うということなのか

→教育会議で了承されているものであり、教養教育のセミナーだけを指しているものではなく全学的なものである。

- 人文学部では、そのものずばりのPBLセミナーの授業があり、既にある授業について内容的にはいいと思うが、開講ガイドラインに示されているような「授業を開放し、他の教員の授業参観ができること」、「授業担当教員は事前にPBLセミナーにかかわるFD研修に参加することが望ましい」といったことを後で言われても困るものであり、人文学部として新しいカリキュラムを作る時に専門PBLセミナーを新しく作っており、これを厳密にあてはめると「それはPBLではない」ということにもなりかねないが、数値目標にカウントしてもらい貢献できればいいと考えているが、こういう縛りをつけることで逆に首が締まるということになり得ないかと思うがどう考えるのか

→セミナーということで開設部局が違えば中身が違うということも大きな問題になるので開講の計画書、シラバス等で予め内容等を知らせていただき、そこで授業としての本質というようなことを共有させていただきたいということで考えており、ガイドラインということなので、絶対的にその要件が整わなければカウント対象にはならないということではなく、PBLセミナーということの授業形態を踏まえていただければ、授業の広がりということで考えていただければありがたいと思っており、ガイドラインについては絶対的にこれをやらなければ

ばならないといったようなそこまでの強いものではないと考えている。

- ガイドラインとしては絶対必要条件ではないということで人文学部での蓄積について全学的にどう活用していただくかについて今後相談していきたい
 - 人文学部の方でセミナーということで進めていただいていることもあるので他学部の先生方へも授業参観というような形で、他学部への広がりへのきっかけ作りになればと思うので、今後も協力願いたい。
- 3. 医療機器業界における医療機関等との透明性ガイドラインに基づく情報公開についての承諾について
 - 社会連携課長から、「資料：報－3」に基づき、医療機器業界における医療機関等との透明性ガイドラインに基づく情報公開についての説明があり、三重大学として承諾をした旨の報告があった。
- 4. 教職員における障害への意識・理解に関する調査について
 - 野崎副学長から「資料：報－4」に基づき、「教職員における障害への意識・理解に関する調査」について目的、調査内容、プライバシー及び個人情報の取り扱い、対象者、実施方法についての説明があった。
 - また、平成29年10月23日（月）から実施することとしたい旨の付言があった。
- 5. COC+に係る報告
 - 富樫副学長から「資料：報－5」に基づき、平成29年度第4回地域創発部門会議における検討状況等について、みえリーディング産業展へのCOC+としての出展、結婚・出産・子育てに関する啓発コンテンツ、COC+内部評価委員会、三重創生ファンタジスタ対象科目修得状況、COC+先進事例調査についての報告のほか、COC+ロゴが入った名刺が完成した旨の報告があった。
- 6. 平成29年度第1回地域人材育成推進会議の概要報告
 - 山本理事から、平成29年9月28日に開催された平成29年度第1回地域人材育成推進会議において「目指すべき人材像」、「インターンシップ」の2つのテーマについて意見交換を行った旨の報告があった。
- 7. 第1回・第2回保健管理委員会報告（第1回：平成29年7月6日開催、第2回：平成29年9月20日開催）
 - 新保副学長から「資料：報－6」に基づき、第1回・第2回に渡り検討した留学生及び海外からの研究者等の渡日前健康診断についての報告があった。
- 8. 各種証明書発行の有料化（卒業生）の実施について
 - 財務部長から「資料：報－7」に基づき、各種証明書発行の有料化（卒業生）について、平成30年1月以降に実施を予定（クレジット決済等に係るシステムの準備ができ次第）している旨の報告があった。
- 9. 物品管理状況の報告について（再調査）
 - 財務部長から、「資料：報－8」に基づき、物品管理状況の再調査についての報告があった。
- 10. 三重大学COC+シンポジウムの開催について
 - 山本理事から、「資料：報－9」により、三重大学COC+シンポジウムを平成29年11月26日（日）14：00～三翠ホール（小ホール・ホワイエ）において開催する旨の報告があった。

11. その他

①高等教育コンソーシアムみえが行うアンケートの再協力について

学務部長から、結婚等意識調査の結果報告があった後、調査の協力に対する謝辞があった。

以上